

～埋蔵文化財発掘ミュージアム～

→古代の貴重品・硯を発見！

博多区博多駅南

ひえ
比恵遺跡群

あすか
比恵遺跡群で、飛鳥時代

(7世紀ごろ)の硯を発見しまし

た。これは「獸脚円面硯」と呼ばれる

直径20cmほどの陶製の丸い硯の一部で、

細やかな文様や、硯を支える脚などの装

飾が施されています。

硯の全体予想図



当時、硯を使う＝

文字を書くことができた

のは役人や僧侶など限

られた人たちでした。硯

の発見は、この地に古代の役所のような施設が

あった可能性を示す貴重な手がかりなのです。

今回発見した
硯の脚部



→奈良時代の儀式!?壺を埋めた理由

博多区麦野

むぎの
麦野A遺跡

麦野A遺跡では、奈良時代(約1300年

前)の穴から3点の「長頸壺」という壺がほぼ

完全な形で発見されました。その名前のとお

り頸の長い、青灰色をした硬質の土器の

壺で、本来は酒などを入れるものです。

同時期の大宰府政庁(太宰府市)

の中門にも長頸壺が埋められてお

り、これは地鎮の祈願のためと考

えられています。麦野A遺跡

の壺も何らかの祈りを込

めて埋められたので

しょう。



発見時の状況

※いずれの発掘調査も終了し、遺跡はすでに埋め戻されています。

→7月のイベント情報

7月

1～15日 博多祇園山笠行事

(国指定無形民俗文化財)

9日 田島神楽(市指定無形民俗文化財)

16・17日 元岡祇園ばやし・元岡獅子舞
(ともに市指定無形民俗文化財)

23日 埋蔵文化財センター考古学講座 第3回
「弥生絵画の世界」
講師：深澤芳樹氏(天理大学)

もとわかぎおん ししまい
元岡祇園ばやし・元岡獅子舞

やさかじんじゃ
毎年7月中旬に行われる元岡八坂神社(西区元岡)の祇

園祭の中で披露されます。祇園ばやしは三味線・笛・太鼓を地

域の大人や子どもたちが演奏します。獅子舞は、獅子のほかに猿

や鉄砲撃ちが登場する喜劇的な

芸能です。古くから地域に伝承さ

れる身近な民俗芸能に皆さんも

ぜひ触れてみてください。



大人も子どもも一緒に楽しむ行事です

福岡市

経済観光文化局文化財部

住所：福岡市中央区天神1-8-1

TEL：092-711-4666 FAX：092-733-5537

文化財の保存・管理・整備・活用に関すること

文化財保護課 TEL：092-711-4666

福岡城跡と鴻臚館跡に関すること

大規模史跡整備推進課 TEL：092-711-4784

埋蔵文化財の発掘調査・手続きに関すること

埋蔵文化財課 TEL：092-711-4667

埋蔵文化財センターに関すること

埋蔵文化財センター TEL：092-571-2921

ホームページ 福岡市の文化財

<http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>



歴史 の風

ふくおか 文化財だより

Vol.3 2016年6月

→福岡城の地震への備え ～発掘でわかった石垣内部～

4月の熊本地震では福岡市中央区でも

震度4を観測しました。発生直後に福岡城内の巡

回を行いました。地震による被害はありませんでした。

今回の地震で改めて注目されるのが、平成25年に福岡城

上之橋御門石垣の解体調査で発見された石垣内部の「石

列」です。石垣の表面

の巨大な石の背後には

「裏込石」と呼ばれる直

径10～20cm前後の石

が詰められています。裏

込石は主に雨水を排水

する働きがあり、これまで

は無造作に詰められたと

考えられていました。



石垣内部の拡大写真

小さな裏込石の間に、並行して並ぶ大きめの「石列」が見えます。このようなつくりは全国初の発見です。

しかしこの調査で、石垣表面と直交方向に直径40～50cm

前後の石を並べた「石列」をつくり、その間に裏込石を詰めると

いう工法で石垣がつけられたことが分かったのです。これは地震

の際、裏込石全体で揺れを吸収し和らげる「耐震構造」だっ

たと思われます。平成17年の福岡県西方沖地震や今回の

地震で福岡城の石垣に大きな被害がなかったのは、このような

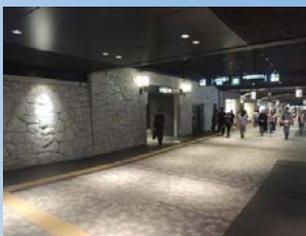
見えない地震への備えのおかげだったのかもしれない。

→雨の日は地下街で遺跡探し？

～ここにも遺跡！～

雨の多いこの季節…地下街を歩くことも多いのではないのでしょうか。そんな時は天神地下街で遺跡探しをしてみませんか？

方法は簡単。地下街の壁に注目して歩いてみてください。突然、壁が石垣風になっている

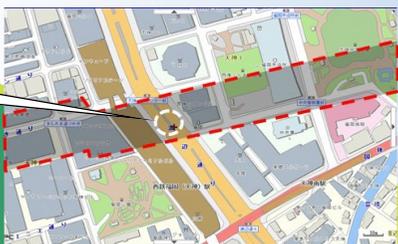


天神地下街の石積み広場

場所があります。長さにして約50m。7・8番街付近の「石積み広場」と呼ばれるこのエリアには、福岡城の堀がかつて存在していました。

福岡城の堀は、舞鶴公園・大濠公園にその姿を残すのみとなっていますが、江戸時代には福岡城から現在の市役所の南側を通り、那珂川に向かって伸びる堀がありました。現在の中央区の西通りあたりから東側は、肥前藩（現在の佐賀県にあった藩。藩主は鍋島氏）の協力のもと造られたことから「肥前堀」と呼ばれています。

もし、石垣があったならどんな風景だったのでしょうか…？お買い物や雨宿りの際、福岡の昔に思いを馳せてみると、いつもの景色も違って見えるかもしれませんね。



天神地下街周辺の肥前堀の範囲

福岡城 肥前堀

→埋蔵文化財センターだより

考古学講座に参加してみませんか

現在、福岡市埋蔵文化財センターでは「考古学講座」を開催しています。



たまちゃん コウコ しかさん

今年度の考古学講座のテーマは「絵画と造形」。年8回の講座で、旧石器時代から近世まで、さまざまな物に描かれた絵や土偶・埴輪・人形などといった造形物を取り上げます。研究の第一線で活躍する講師が、福岡市の発掘調査の成果をふまえながら解説します。

那珂第23次調査で出土した弥生土器に描かれた鳥



今回は7月23日(土)

午後1時半から、深澤

芳樹氏（天理大学客

員教授）が、土器など

に描かれた弥生時代の

絵画について講義を行

います。入場無料、申

込みは不要です。7月以降の予定は、埋蔵文化財センター

のホームページをご覧ください。

義援金箱を設置しました

平成28年熊本地震への義援金箱（壺）を受付に設置しています。本物の弥生土器ですので、どうぞ直に触れていただき、募金にご協力ください。

詳しくは福岡市埋蔵文化財センターのホームページをご覧ください。

<http://www.city.fukuoka.lg.jp/maibun/html/>



→西区にあらたな古墳公園

いまじゆくこふんぐん やまのはな
今宿古墳群・山ノ鼻1号墳を整備しました

山ノ鼻1号墳（西区女原北）は、古墳時代（4世紀）に造られた、長さ約37mの前方後円墳です。JR筑肥線「九大学研都市駅」や「さいとぴあ（福岡市西部地域交流センター）」のすぐ南側にあります。

平成27年度に古墳周辺の整備を行い、現在古墳公園としてオープンしています。古墳の上には新たに盛土を行って保護し、盛土のすそにめぐらした縁石で古墳本来の形を表現しました。盛土の上には説明板を置いています。

今宿・周船寺地域の一帯には多くの前方後円墳があり、今宿古墳群として国の史跡に指定されています。山ノ鼻1号墳の周辺にも、大塚古墳、若八幡宮古墳、丸隈山古墳といった古墳があります。「福岡市の文化財」ホームページでは散策コースを紹介していますので（「文化財を見に行こう」→「福岡文化財めぐり」→「12. 福岡の古墳時代」）、周辺をめぐってみたいはいかがでしょうか。



整備が完了した山ノ鼻1号墳。鍵穴のような形が特徴的な前方後円墳です。